

イスラエル・イラン軍事衝突に関する緊急声明

令和7年6月13日、イスラエルによるイランの核関連施設への軍事攻撃、ならびにこれに続くイランの報復行為は、国際社会にとって深刻かつ重大な懸念事項であり、大本・人類愛善会は、これを強く非難いたします。

国際社会は、イスラエルとハマスの戦闘、イランの核問題をはじめとする中東の緊張に対し、対話と外交を通じた平和的解決を目指して努力を重ねてまいりました。そのような最中における武力の行使は、断じて許されるべきものではありません。

今回のイスラエルによる核施設の攻撃それに続くイランの報復攻撃は、新たな核の脅威をもたらす行為であり、私たちは、あらゆる暴力行為に対して断固反対します。

かかる暴力の応酬は、ただ一地域にとどまらず、世界全体の平和と安定を著しく損なうものであり、私たちは深く憂慮するものです。すべての関係国に対し、最大限の自制と即時かつ建設的な対話の回復を、強く求めます。

万物を創造された神は、すべての人類の親であります。人は皆「神の子」として等しく尊く、互いに和して生きることが神の御心に適う道です。争い、傷つけ合い、命を奪う行為は、神の意志に背くものであり、いま改めて人類が立ち返るべき根本倫理が問われています。

わが国日本は、かつての戦争の惨禍を深く省み、世界に先んじて「戦争放棄」を掲げた憲法を制定し、平和国家としての道を歩んでまいりました。この精神こそが、今後の世界の進むべき方向を照らす光であると確信しています。

大本教祖出口王仁三郎（人類愛善会初代総裁）は、「天下の穏やかに治まる道は、兵の強きに因らず、国民が天道を信じ、誠の道を守るにある」と説きました。この言葉は、現代に生きる私たちにも道を示す普遍の真理です。

私たち、大本・人類愛善会は、この重大な危機に際し、あらゆる戦争と報復の連鎖に断固として異議を唱えるとともに、全人類が良心と道義に立ち返り、対話と共感に基づく真の平和の確立に向けて行動すべきことを、ここに厳粛に訴えます。

令和7年6月14日

大本・人類愛善会